

# 平成30年度 埼玉県農業大学校評価システムシート

教育方針	1 農業経営に必要な技術と知識を備えた実践力のある人材の育成 2 グローバルな視点と企業的経営感覚を身につけた人材の育成 3 地域の農業をけん引するリーダーの育成
------	-----------------------------------------------------------------------------------------

教育方法	1 課題解決型学習を基軸として実践教育を行う 2 講義、実習、農家研修を効果的に組み合わせて各人の能力に応じた教育を行う。 3 農業法人経営者、流通販売企業家など第一線の外部講師を活用する。 4 農業経営者育成のためのカリキュラムを編成し必要な免許・資格取得を進める。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点目標	1 入学予定者の定員確保 2 次代を創造する農業者の育成 3 学習・生活環境の確保 4 生徒の意向を踏まえた進路指導
------	---------------------------------------------------------------------

達成度	A	達成(100%以上)
	B	概ね達成(80~99%以上)
	C	不十分(80%未満)

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 2 5 日 現 在 )				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<b>【現状】</b> 定員以上の応募がある中で大多数の生徒は農業の担い手としての目標を持って一方で、基礎学力不足や目的意識の欠如など、本校の教育活動についてこれない生徒も見られる。 <b>【課題】</b> 本校の教育活動について、積極的にPRし、目的意識の高い受験生の応募を増やす必要がある。	入学定員90名の確保	①高校訪問の実施 ・延べ200校の訪問 ・隣接1都5県の訪問 ②入学説明会の実施 ・年4日間、8回 ③県内農業関係高校宿泊実習の実施 ・1泊2日 ④地域及び関係機関との連携 ・各種イベントへの参加 ・農林振興センターとの情報交換	①農業関係高校以外の高校へもアプローチできたか。 ②参加者合計が入学定員を上回ったか。 ③計画どおり実施できたか。 ④現役高校生以外へも積極的な情報発信ができたか。	入学試験において、定員以上の95名を合格者とすることができた。 ①県内及び隣接都県への高校訪問数延べ227校(県内農業関係高校9校を含む) ②参加者数286名(昨年262名) ③計画どおり実施(56名参加) ④生徒募集について、イベントの来客者、農林振興センター訪問者等に案内した。また、熊谷駅掲示板上にポスターを掲示した。	A	<b>【課題】</b> 入学定員の確保 <b>【改善策】</b> 今年度の取組を継続するとともに、改定した入試制度を県内外の高校及び関係機関に周知徹底する。	・日曜オープン見学会に個別相談会を導入したことが良かった。 ・日曜オープン見学会に同行してきた保護者を対象に、本校保護者による相談会があると良い。 ・他県への募集を積極的に行うべきである。 ・生徒募集に関して、他県の農業大学校の視察を行い、優良事例を参考にすると良い。
2	<b>【現状】</b> 鶴ヶ島市から熊谷市への移転に伴い、新しい農業実習棟や温室等での授業が軌道に乗つつある一方で、農業を取り巻く社会情勢も大きく変化してきている。 <b>【課題】</b> 先端技術の導入や環境への配慮等時代の変化に対応した農業技術を導入するとともに、先進的な農業体験活動を展開する必要がある。	①栽培施設における先端技術の導入	①栽培施設における計測機器の設置及びデータ計測環境の導入整備 ②生徒に対してデータ計測・分析方法の指導や先端的技術活用全般に関する講義の実施	①計測機器の設置及びデータ計測環境の導入整備ができたか。 ②データ計測・分析方法の指導や先端的技術活用全般に関する講義が実施できたか。	野菜栽培施設に先端機器を導入した。 ①温室内に環境測定装置及び炭酸ガス発生装置を設置した。 ②先端機器導入後に、講義を4回、現地研修を1回実施した。	A	<b>【課題】</b> 導入した先端技術の活用 <b>【解決策】</b> 収集したデータを有効活用し、実践教育に役立てる。	・先端技術の導入により、生徒の学習意欲が向上したことは良かった。 ・外部講師や専門家から、積極的に情報収集すると良い。 ・農業だけの発想では狭いので、企業に学ぶ等他産業の視点を入れることが重要である。 ・6次産業化に関して、他業種との連携を図ることも必要になる。 ・先進農家や農業法人での体験学習では、生徒の指導に加えて、受入先への働きかけも重要である。 ・農業認証に沿った指導では、認証が生まれた背景など、多面的に学ばせることが重要である。
		②先進的農業体験活動の実施	①新規就農希望者支援 ・チャレンジファーム及びチャレンジカンパニーの実施 ②先進農家体験活動の実施 ③農業認証取得のノウハウを生かした農業実習 ・G-GAP ・埼玉県優良生産管理農場 ・有機JAS認定	①チャレンジファーム及びチャレンジカンパニーが計画どおり実践できたか。 ②先進農家体験活動が実施できたか。 ③認証基準に沿った農業実習ができたか。	先進的農業体験活動を実施した。 ①4回の農産物販売を行うなど、概ね計画どおり実践できた。 ②2年生全47名が45の受入先で研修を行った。 ③生徒に認証基準を指導しつつ農業実習を行うことができた。 有機JAS認定を更新できた。	B	<b>【課題】</b> 考えて実践できる生徒の育成 <b>【解決策】</b> 今年度の取組を継続するとともに、連携先の農家や農業法人等との調整を密にする。	
3	<b>【現状】</b> 施設や設備など、生徒が実習や学習に取り組む環境の整備は着実に進んでいる。 <b>【課題】</b> 農作業や農業実験を行うにあたり、扱いや操作を間違えると大きな事故につながる器具や装置、機械があり、生徒が安心安全に学習に取り組む環境を維持することが重要である。	農作業実習中の事故ゼロ	①安全指導の徹底 ・職員研修会の実施 ・実験実習における指導 ②日常的な施設・設備の点検 ・農業機械の点検・整備 ・新たな販売実習棟を含む実習施設の適正な管理	①実験・実習時に安全指導が行われたか。 ②施設・設備の点検・整備が行われたか。	農作業実習中の事故がゼロであった。 ①職員研修で醸成した安全意識のもと指導を行った。 ②農業機械及び実習施設について、日常的に点検を行い、修繕箇所を発見し次第対応した。また、月別に安全標語を作成し掲示した。	A	<b>【課題】</b> 農作業実習中の事故ゼロ <b>【解決策】</b> 今年度の取組を継続する。また、初めて農作業を行う生徒への指導を工夫する。 農業認証を生かした農業実習を継続する。	・農業大学校に入学して初めて農作業をする生徒が増えてきていると聞くので、安全指導は益々重要になる。 ・月別安全標語の作成とその掲示は、良い取組である。
4	<b>【現状】</b> 農業自営を土台とした教育活動を展開している中で、近年、非農家からの入学生が増加傾向にある。 <b>【課題】</b> 非農家出身者の進路(就職先)を確保する必要がある。また、就農、就職後に必要な農業関連資格を取得させることも重要である。	進路決定率100%	①進路指導 ・キャリアコンサルタントによる指導 ・法人を含む就農支援 ・就職先開拓 ・農業法人等見学会(6回) ②資格取得 ・大型特殊免許(農耕車限定)取得希望者100%合格	①生徒のニーズに対応した進路指導が行えたか。 ②大型特殊免許(農耕車限定)取得希望者が全員合格したか。	進路決定率100%を達成した。卒業生75名(就農-25、就職就農-17 関連産業-14、就職-10、農業研修-8、大学編入-1) ①生徒の希望に対応した進路指導を行った。求人数は120件であった。 ②大型特殊免許(農耕車限定)合格率92.5%	A	<b>【課題】</b> 進路決定率100% <b>【解決策】</b> 今年度の取組を継続する。専攻横断的な進路指導の充実に努める。	・インターンシップ等、企業での職業体験を通じて、就職に関する情報収集をさせると良い。 ・大型特殊免許(農耕車限定)取得のニーズが高まっているので、農業大学校で取得できることは良いことである。